

2023 年 7 月 10 日

関係各位

株式会社パテント・リザルト

【自動車メーカー】他社牽制力ランキング 2022

トップ 3 はトヨタ、ホンダ、日産

弊社はこのほど「自動車メーカー業界」の特許を対象に、2022 年の特許審査過程において他社特許への拒絶理由として引用された特許件数を企業別に集計した「自動車メーカー業界 他社牽制力ランキング 2022」をまとめました。

この集計により、直近の技術開発において、競合他社が権利化する際に阻害要因となる「先行技術」を多数保有している先進企業が明らかになります。

集計の結果、2022 年に最も引用された企業は、1 位 **トヨタ自動車**、2 位 **本田技研工業**、3 位 **日産自動車**となりました。

【自動車メーカー業界 他社牽制力ランキング 2022 上位 10 社】

順位	企業名	引用された特許数
1位	トヨタ自動車	7,127
2位	本田技研工業	3,112
3位	日産自動車	2,853
4位	マツダ	980
5位	豊田中央研究所	776
6位	S U B A R U	708
7位	三菱自動車工業	659
8位	スズキ	591
9位	ヤマハ発動機	533
10位	ダイハツ工業	335

【ランキングの集計対象について】

日本特許庁に特許出願され、2022 年 12 月までに公開された全特許のうち、2022 年 1 月～12 月末の期間に拒絶理由（拒絶理由通知または拒絶査定）として引用された特許を対象に、抽出・集計をしています。

また本ランキングでは、権利移転を反映した集計を行っています。2023 年 5 月時点で権利を保有している企業の名義でランキングしているため、出願時と企業名が異なる可能性があります。

なお各企業の業種につきましては、総務省の日本標準産業分類等を参考に分類しています。

1 位 **トヨタ自動車**の最も引用された特許は「全固体電池の容量維持率を向上させることが可能な硫化物固体電解質の製造方法」に関する技術で、古河機械金属などの計 7 件の審査過程で引用されています。このほかには「回転電機ステータ及びその製造方法」に関する技術が引用された件数の多い特許として挙げられ、アイシンや日立製作所などの計 6 件の拒絶理由として引用されています。

2022 年に、トヨタ自動車の特許によって影響を受けた件数が最も多い企業は本田技研工業（568 件）、次いでデンソー（499 件）となっています。

2 位 **本田技研工業**の最も引用された特許は「必要な場面に限定して被遠隔運転を行うことが可能な車両制御システム」に関する技術で、トヨタ自動車などの計 7 件の審査過程で引用されています。このほか「適切な遠隔操作者に遠隔運転を実行させることができる遠隔運転制御装置」に関する技術が引用された件数の多い特許として挙げられ、トヨタ自動車などの計 6 件の拒絶理由として引用されています。

2022 年に、本田技研工業の特許によって影響を受けた件数が最も多い企業はトヨタ自動車（465 件）、次いでデンソー（167 件）です。

3 位 **日産自動車**の最も引用された特許は「運転者異常時支援装置」に関する技術で、SUBARU や本田技研工業など計 6 件の審査過程において拒絶理由として引用されています。

2022 年に、日産自動車の特許により影響を受けた件数が最も多い企業はトヨタ自動車（467 件）、次いで本田技研工業（227 件）となっています。

4 位 **マツダ**は「車両用フロントウインドのヒータ装置」、5 位 **豊田中央研究所**は「永久磁石およびその製造方法」が、最も引用された特許として挙げられます。

* * *

また弊社では、ランキングデータを下記の通り販売しています。

【自動車メーカー業界 他社牽制力ランキング 2022 データ】

▶納品形態：以下のデータを収録したエクセルファイルをメールで御納品※

（※データ一式を収録した CD-R での御納品をご希望の場合はご相談ください）

- ・ランキング トップ 30 社：本業界の被引用件数上位 30 社のランキング
- ・被引用件数 トップ 100 件：本業界の被引用件数上位 100 特許、及び引用先の特許との対応

▶価格：50,000 円（税抜）

【本件に関するお問い合わせ先】

株式会社パテント・リザルト 事業本部 営業グループ

URL：<https://www.patentresult.co.jp/>

e-mail：info@patentresult.co.jp